

第3回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日 時 平成19年11月17日(土) 午前10時～午後0時20分
場 所 稲毛区役所 3階 講堂
出席者 委員 16人(29人中)、ガイドヘルパー1人、手話通訳者2人、
事務局9人(福祉サービス課4人、千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所
3人、保健福祉総務課2人)

【2】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題 (1) 地域福祉パイロット事業について
(2) 区地域福祉計画の35の具体的な取組状況について
(3) 地域福祉計画の広報・PRについて
(4) その他

【3】議題

(1) 地域福祉パイロット事業について

事務局が地域福祉パイロット事業申請状況について説明を行った。

・山王地区部会

(山王地区発、心のバリアフリープロジェクト

～障害のある人との交流から始まる新しい地域づくり～)

障害児・者とその家族を中心に、障害の有無や種別を越えた交流・啓発活動を行っている市民団体「ぐっぴいの会」、特定非営利活動法人千葉まちづくりサポートセンターと連携し、地域住民と障害者との『交流・体験プログラム』を実施する。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

(委 員) 「ぐっぴいの会」がお楽しみ会を始めてから10年目になる。今まで社協の方、
〔ぐっぴいの会 関係者〕 民生委員の方々を中心に協力をいただき、また理解を深めていただいている
と思う。地域の住民の方にチラシ等を配布してもなかなか参加していただけ
なかった。今回、このパイロット事業を通して地域の方々との交流を深めら
れればと思う。この事業を他地域にも波及させていければと考えている。
現在、日程調整を行っているが、一応平成20年3月25日(春休み中)山王
小学校を予定している。内容としては、視覚障害の体験、ピンキング体操、
パネルシアター、ジャグリング、高齢者体験等を予定している。
※今回申請のあった地域福祉パイロット事業の参加団体である「ぐっぴいの
会」関係者から追加説明があった。

(委 員) 私は山王町に住んでいるが、このような事業が行われているのは知らなかつ
た。地域の方の中からボランティアを募集して、地域でこのような事業を行

なっているのだよ、ということを回覧版などで周知していくということか。

(事務局) 先日、山王地区部会長、特定非営利活動法人千葉まちづくりサポートセンター関係者、ぐっぴいの会関係者で話し合いを設けた。その中で、ボランティア募集は各自治会に協力していただいたほうが地域すべてに広まるのではないかと、との意見があった。事業の周知については、各自治会長を通してチラシを配布していきたいと考えている。また、他にも広く配布することとも考えている。

(委員長) イベントだけ参加されるボランティアではなく、今回のイベントに参加していただき、道端で障害をお持ちの方に「何かお手伝いしましょうか？」のような言葉をかけたり、実際に介助できるようになっていただければと思う。

(委員) 当事者との交流とあるが、地域住民はどのような意図で参加されるのか。

(委員) 地域住民だけでなく、ボランティアとして参加している社協地区部会の方、
〔ぐっぴいの会関係者〕自治会の方々と知り合えるきっかけを持って交流を図っていただきたい。また、地域で障害を持った子どもに会った際には、声かけや観察をしていただきたい。

(委員) 知的障害を持った子と交流をしようと思う地域の住民の方はいないのではないかと。

(委員) その通りだと思うし、そこが一番の悩みである。ただ、10人来てくれたとして、
〔ぐっぴいの会関係者〕その後をテーマとしたほうがいいのではないかなと思う。

(委員) どのような方を動員するかに力を入れたほうがいいのではないかと。言葉も通じず、意志も通じず、このような方と接するというのは日常ではあまりない。ただ、この経験をした事がある方は、その重要性や価値が分かると思う。このような経験を一人でも多くの方にしていただき一線を越えていただきたい。例えば、学校の先生に理解を求め、保護者の方に周知していただいたりすることも可能ではないか。一方が一方のためだけではなく、お互いがお互いのために活かしあえることが重要ではないか。

(委員) このような機会に、全く分からない方に知ってもらうことが重要である。育成委員会や町会と協力して頑張っていたきたい。是非、私も出席したい。

(委員) 広報を何となく一般に撒くというわけではなく、〇〇委員が言っていたように、半ば半強制ではないが、自治会、育成委員会、学校等既存組織に動員をかけ参加者・協力者を集めていくのがいいのではないかと。

(委員) 障害を持った方が世間に出てきたことはうれしいことである。一人一人が自分を大切にしていることである。

地区部会には、障害者福祉委員会という組織があるので協力したほうがよいと思う。地区部会は地域に根ざした活動をしていて、大きなPRができると思う。どんどん活用していただきたい。

(委員長) 障害者福祉委員会はすべての地区部会にあるのか。

(委員) 障害者福祉委員会はすべての地区部会にあると思う。地区部会には5つの委員会が設けられていて、1委員会につき10,000円の活動資金が助成されている。

〔ぐっぴいの会
関係者〕 (委員) 山王地区部会として、障害者福祉委員会と民生委員と地区部会役員の方々が「ぐっぴいの会」の事業に協力をしていただいている。今年は、地区部会関係者だけではなく、自治会にも声かけをしていただけることになった。本当に感謝している。

(委員) 今まででは知的障害の関係者ということで活動してきたと思う。今後、障害のある方が幅広く参加すると思うが、様々な障害を持った方と接触を持ち、障害者の理解、また、障害者への正しい対応を学んでいただきたい。今後も継続して頑張っていて活動して欲しい。

(委員) 障害者には、大きく分けて身体障害者、知的障害者、精神障害者に分けられている。また、個人情報保護条例があるので、活動する際には十分注意して活動していただきたい。

(委員長) 本日いただいた意見は、12月上旬に行われる地域福祉パイロット事業審査会に参考意見として提出されるのでご了承いただきたい。

(2) 区地域福祉計画の35の具体的な取組み状況について

まず、意見交換を行う前に、社会福祉協議会の概要及び地区部会が実施している様々な事業を紹介する社協PRビデオを上映した。なお、このPRビデオは、千葉市社会福祉協議会活動について広く周知することにより地域福祉に対する理解と協力を図るため寄付によって製作された。

その後、原田委員長の進行により区地域福祉計画の35の具体的な取組みについて意見交換が行われた。

(委員長) 社協PRビデオとDVDは社協稲毛区事務所で貸出している。

(委員) 障害者関係の活動が入っていなかったの、入っていればもっと良かった。

(委員) ビデオを見て自分の地区でもできるのではないかと思う活動があった。

(委員) ふれあい食事サービス施設利用型はどのような形で利用できるのか。

(事務局) 施設利用型は、該当地区の近隣にある施設を開放して利用していただいている。

(委員) 稲毛区にある、でい・さくさべでは子育て支援の事業や老人の方の事業を実施していたり地域に開放しているようである。

(委員長) ふれあい食事サービスにかかわらず、地域内にこのような施設があれば、地域開放をお願いできるということですね。

(事務局) 地区部会が地域にある施設を使用したいということであれば、社協に相談していただければ間に入って交渉することも可能である。

(委員) 稲毛区内には9つの地区部会があり、各々の地区部会が自分のエリアにある施設を大いに活用している。当地区部会では、公民館といきいきプラザしかないため、この施設をサロンや食事サービス実施の際に活用している。また、地域内に森林組合があるため地区部会事業で竹ぼっくりを作成する際に指導をお願いしたりしている。交渉が難しければ社協にお願いするのも一つである。地域内にある施設は大いに利用すべきである。

(委員) 障害を持った方がもっと積極的に参加すれば啓発活動ができると思うが、な

なかなか参加できていないのが現状である。皆さんと知り合えるいい機会であるのではないかと思います。

(委員長) 実際に地区部会では、障害者関係の事業はどのようなことが行なわれているのか。

(事務局) 稲毛区内の地区部会では現在、障害をお持ちの方だけを対象とした事業を実施している地区はないと把握している。ただ、地区部会によっては、障害者団体の事業に参加・協力している地区部会はある。

他市町村の事例では、子育てサロンへ近隣にある特別養護老人ホームやグループホームの方を招いて開催しているところもあり、認知症だったお年寄りが、子育てサロンへ参加することをきっかけに介護度が軽くなったという話を聞いたことがある。今後、サロン活動も現在の形を発展して様々な方との交流をしていければと思う。

(委員) サロン活動に括りはあるのですか。

(事務局) 現在、社協で推進しているサロン事業は、いきいきサロン事業・散歩クラブ事業は閉じこもり防止や寝たきり及び認知症の予防を行うとともに、高齢者の仲間づくりと地域福祉活動の推進を目的としており、概ね 65 歳以上の高齢者を対象としている。また子育てサロン事業は、情報交換を通じて、子育て親子の仲間づくりと地域福祉活動の推進を図ることを目的としており、乳幼児とその親を利用対象としている。ただし、上記で定められている対象者以外でも 3 事業とも地区部会長が特に必要と認められる場合においては参加が可能である。

(委員) 当地区部会では、ふれあい食事サービスを実施しているが、すべての高齢者に声かけをしてしまうと会場に入りきれなくなってしまう、また、予算の関係もある。なので、地域の実情に応じて細かいところは各地区部会に任せられている。障害者関係の事業については料理教室を公民館で見かけたことがある。但し、地区部会で同じような事業を行なうとするとどこに障害者がいるか分からない。やっと「ぐっぴいの会」のような方々が出てきたので、これからは障害者の方々とも一緒に事業を行っていただけるのではないかと思います。今までは障害児・者を理解しようとする勉強会を実施していたが、今回当地区部会では、小学校の体育館で車椅子等の体験を予定している。その時には、来てくれる障害者の方がいれば声をかけて一緒にやっていただけるよう案内を出そうと考えている。特に括りはないので、地域のニーズに合わせて地区部会長及び委員会の方々と話し合いを設けて実施している。

(委員) 我が家の子もそういった事業に参加したい場合は、参加は可能なのか。

(委員) それは可能である。地区部会長へお話しいただければ相談に乗ってくれると思う。

(委員) 今の話を聞いていて、私達障害者の PR 不足もあったのではないかと思います。

私達が頼みたいことを社協で受けてもらえない現状がある。スポーツをやりたいので介助者をお願いしたいと思うときになかなかボランティアの協力が得られない。突発的・単発的な依頼の場合は特にそうである。そういったニ

ーズに応えられるようにしていただきたい。

(委員) 市と交渉してボランティア講座を再開してほしいと要望している。

(委員) DVDを見たが、千葉市では社協活動が活発に行われているように思う。一方で全国的に社協を無くしたほうがいいのではとの声を聞いたことがあるが事実であるのか。

(事務局) 地域に根ざした活動を推進していくことが社協の使命であり、今後も地域に根ざした活動を続けていきたいと考えている。

(委員) 社協を無くせと言っているわけではなく、無くしていこうとしている傾向があるように聞いている。何故そのような声が地方で上がっているか。

(事務局) そのようなことは聞いていません。

(委員長) その情報はどこでお聞きになったのか。

(委員) 私の職場は福祉関係である。また、地域の方々からも社協は行政でやるべきことを請け負ってやっていると思うが、本来は行政がやってしかるべきではないか、と言っている方もいる。

(委員長) そのような考えも持っているということであり、それが必ずしも正しいというわけではない。少なくとも千葉市では社協の機能強化を考えているようである。

(事務局) 社協でもガイドヘルプボランティア養成講座を開催している。実際に講座に参加された方がすべて活動に結びついているわけではない。興味はあって参加はしたが、実際に学んでみると難しいという意見をいただくことがある。確かに、ボランティアニーズすべてに対応できているというわけではないが、できるだけすべてのニーズに応えられるように努力はしていきたいと考えている。

(委員長) ちょっとした介助・手助けから始めていけばいいのかなと感じる。

(委員) 歩くか走るかのボランティアであれば、私は第1・3日曜日代々木公園で活動しているので、行かれるようであれば声をかけていただきたい。

(事務局) 千葉市ハーモニープラザで12月1日～9日までハーモニープラザフェスタがあり、その中でスポーツ交流会を実施する予定である。

(委員長) 障害をお持ちの当事者だけではなく、介助に興味がある方も参加してみると何か得られる機会かもしれない。市政だよりに掲載されているようである。

(3) 地域福祉計画の広報・PRについて

事務局から推進協だより第3号の発行について以下のとおり説明した。

1面は、第1・2回の推進協の内容、委員長の挨拶、委員名簿を掲載し、2面には各地域の実情に合わせた実践例である2つのパイロット事業を取り上げ掲載した。また、今年度申請があり、助成が決定した事業も掲載した。今後も区域・事業内容に偏りなく2箇所位ずつ紹介していきたいと考えている旨の説明を行った。

委員長から以下のとおり説明があり意見交換が行われた。

委員長から前回の推進協で千葉市の地域福祉活動事例集編集委員に関わっている方は

遠慮していただいたが、推進協だよりの編集に関わりたいという方がいれば上記に関わらずご協力をしていただきたい旨の説明があった。

(委員) 地域福祉活動事例集はほとんどが千葉市で計画されていた。編集委員がやることは、地域から挙がってきた事例をどれにするかと取材に行くことである。私が何故推進協だより編集委員に希望したかという、地域福祉活動事例集と推進協だよりとのかかわりを入れていければいい思い、また協力したいと思ったので希望した。この推進協は様々な団体が属している。そういった方々の力を借りて委員長も挨拶文の中で自助・共助と書いてあるので自分達で広報委員会を作り作成していければいいのではないかと思った。広報作成を事務局に頼んだら公助になってしまう。当地区部会では、広報委員会が中心となり知らせたい内容、活動している内容を広報紙に掲載している。なので、推進協でも内容は広報委員会で作成し、印刷は事務局に頼むということではないか。これだけの方が集まっているのだから、何人か編集委員が集まればもっとよい推進協だよりができるのではないか。

(委員長) 地域福祉活動事例集の進捗状況はどのようになっているのか。

(保総課) 第1回推進協において地域の様々な福祉活動を紹介する地域福祉活動事例集を作成する旨説明し、編集委員の募集を行ったところである。〇〇委員と〇〇委員に編集委員として協力していただけることになった。掲載事例は、推薦、自薦及び事務局推薦含め市内全体で25件の応募があった。各区2件ずつの事例を選定し計12件の取材を実施している。来年度2月中に発行を予定している。

(委員長) 今後のすすめ方にも関わってくるが、広報委員会を立ち上げたほうがいいのではないか、との意見もでてきた。また、地区フォーラムのように地区単位で集まり情報交換を行うという手段もある。次回以降のすすめ方について意見をいただきたい。

(委員) 社協のビデオを見て、説明も何度か聞いてきたが、未だにまだ具体的にイメージが湧いてこない。区地域福祉計画が策定されてどのような効果があったのかが分からない。パイロット事業を実施したことにより少しは進んだと思うが、地域で行われている具体的な活動等を知りたい。

(委員) 区地域福祉計画が策定されてから来年の3月で丸2年が経過する。1度限りでもいいので地区フォーラムを復活させてみたらどうか。情報交換・推進協に対する意見、地域での活動がどうなっているのか等の情報収集と情報把握を試みてはどうか。

(委員長) 地域での行事等、PRがあったらお願いします。

(委員) 灯籠を立てて町に灯りをとということで12月23・24日に浅間神社の通りに約1,000個の灯籠を飾る「夜灯(よとぼし)」というイベントがある。当地区部会のいきいきサロンで作成した灯籠も約80個提供した。京成稲毛駅から浅間神社までで公民館の周りにも飾られる。

また、今年度のパイロット事業で災害時一人も見逃さないための地図づくりを実施しているが、その一環として12月8日(土)10時から稲毛公民館にお

いて静岡県地震防災アドバイザー川端信正氏を招き、「災害の備えと対策―稲毛の安全を考える」という講演会を実施するので、都合がつくようであれば参加してほしい。

本日の推進協は欠席者が多いように思う。なぜかという、千葉市社会福祉協議会会長表彰式があり、地区部会及び個人の表彰式があるためである。今後、このようなことと重なることが無いようにお願いしたい。

(委 員) 長沼コミュニティ祭りが 11 月 24 日に開催される。この祭りにぐっぴいの会も展示だけではあるが、3 階の音楽室で行っているのでは是非見学に来ていただきたい。

(委 員) 本日、千葉県ミニタウンミーティング（健康、医療、福祉、諸計画の見直し）が午後 1 時から市民活動センターにて開催される。活動されている方等の意見を聞きながら計画づくりに入れていこうというものである。先程、〇〇委員が述べていたことと関係するのは、千葉県地域福祉支援計画での社協の位置づけが、以前策定された計画の中では問題とされていた。県も社協の位置づけを変えていくのではないかと思う。このことではないかと思う。県の健康、医療、福祉に興味がある方は是非参加していただきたい。

(3) その他

①瀬川美由起さん（拡張型心筋症）を救う会について

心臓移植に伴う募金活動で目標金額の 9,350 万円には未だ達しておらず、残り 900 万円ほど足りていない状況である。11 月 6 日ドイツへ渡ったことの報告があったが、臓器提供者が現れないと手術はできない状態であり、今後の具体的な見通しは立っていない状態である。今後ともご協力をお願いしたい旨、美由起さんを救う会共同代表である委員の方から説明があった。

②次回、稲毛区推進協議会開催日程の変更について事務局より説明があった。

当初予定では、第 4 回稲毛区推進協議会開催日は平成 20 年 2 月 23 日であったが、委員長の都合がつかないため、できれば 2 月 16 日に変更していただきたい旨説明した。

以 上